

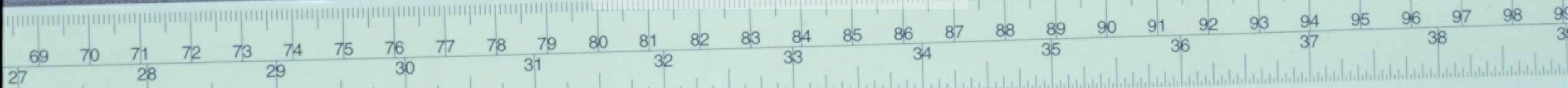
3 0 2 8

1



弘文社

放送大学





3 0 2 8

2



ハツ  
山羊

ハツ子をもち  
北山羊ありたり

ならよく  
おいよ

明治二十年七月十五日  
版權免許同九月出版

西洋昔噺  
第一號

ハツ山羊

定價金拾錢

廣島縣士族

譯者

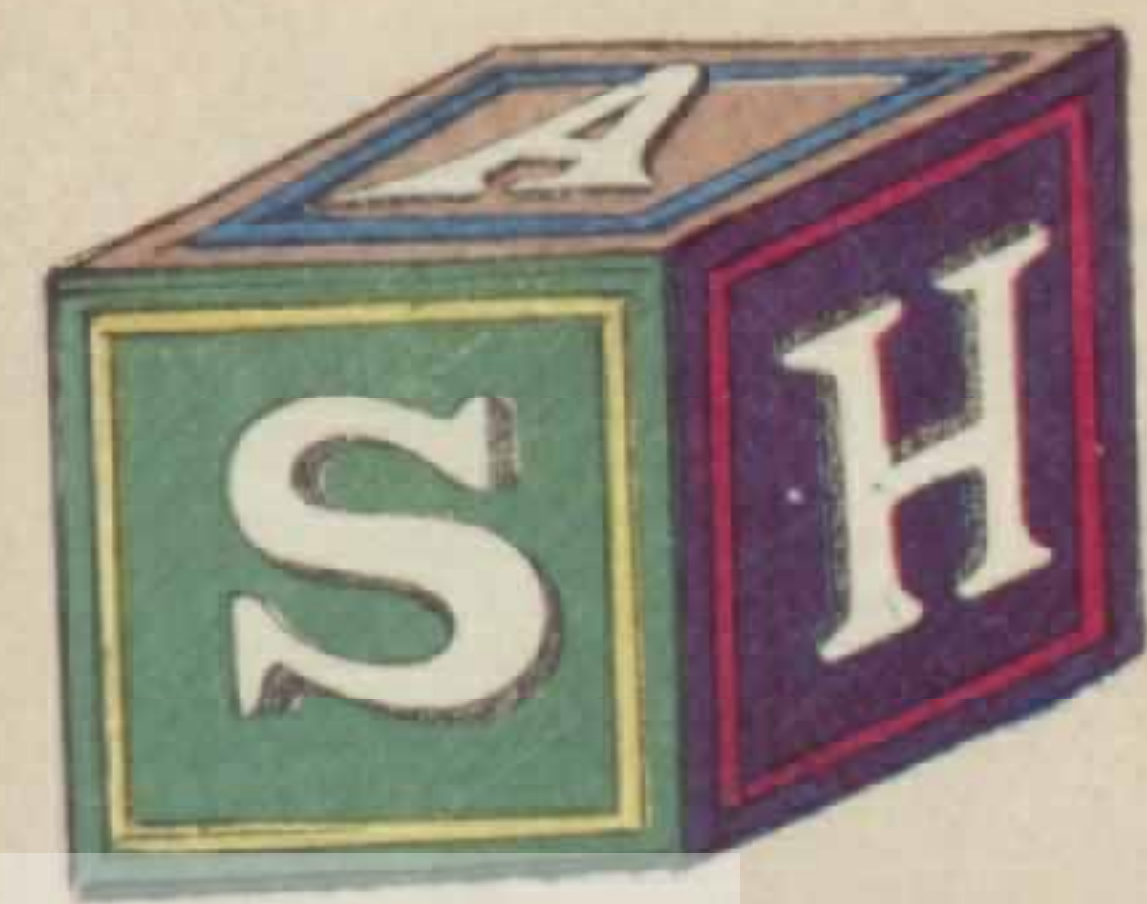
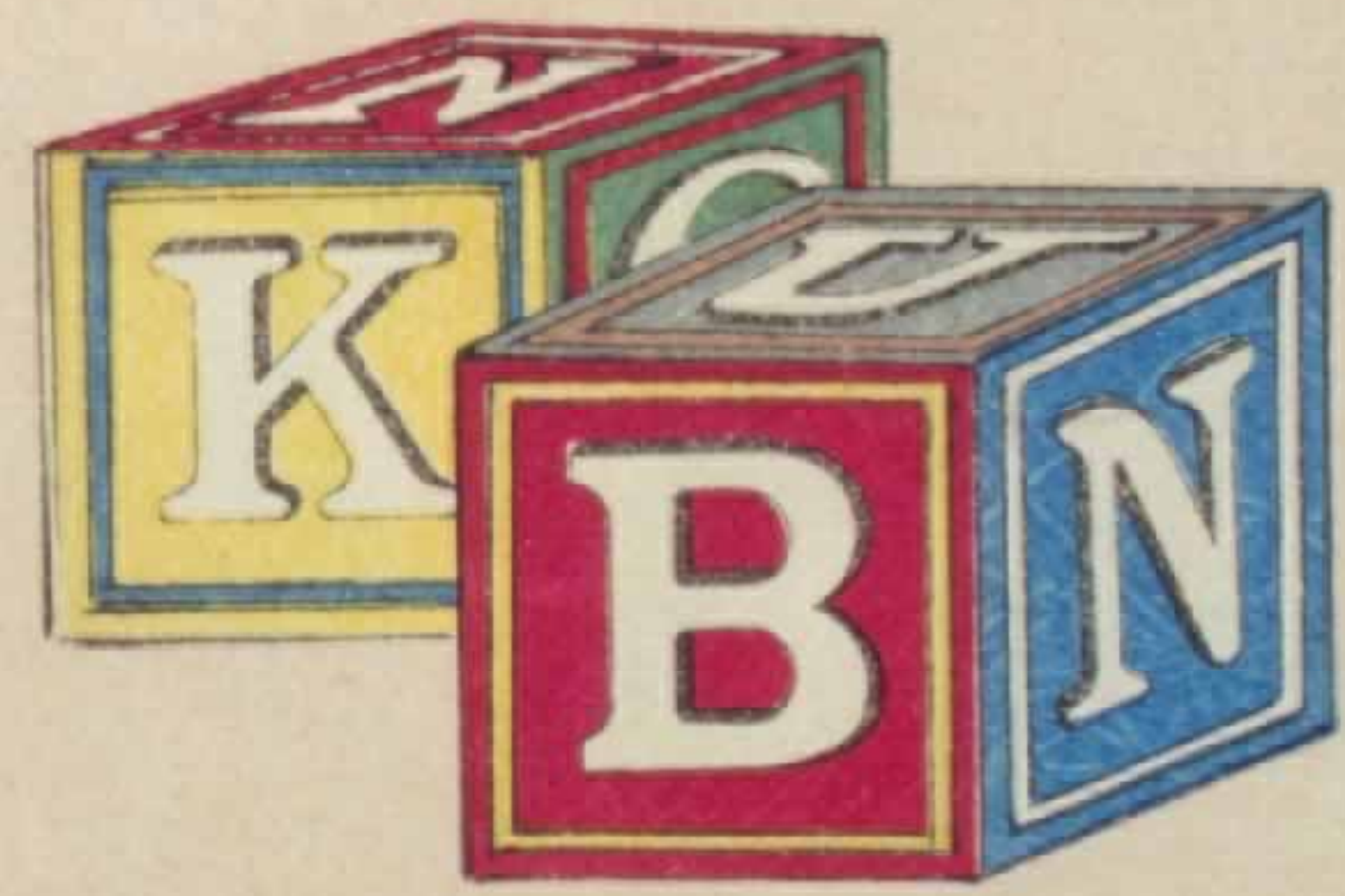
吳文聰

麹町區元園丁二十日八番地

東京府平民

出版人 長谷川武次郎

京橋區南佐柄木町二番地



東京  
南佐柄木町

弘文社

版















して、うらぐらぐらよまのいでゆえぬ、  
 やがてそと相やハかへまきまみれバ子山羊ハ一疋  
 もをふらふ、ぎしきもサシぐりあぐりてあれバア、  
 あれほどソひは多おあし又母のソふくことをきうぬ  
 申急大變なうことがおあしと、ひとまおちけく火を  
 たきけくれバストーブのうらまておつろきんけむ  
 いよくといふ聲のしきれバ、母をられまふまらこび  
 るすちうのまはたぐぬまう、まうぐりとこふれが  
 きふはわうこの敵を討ち果まきし、ソふくとほくハ  
 ゆくま、と針仕事の文庫を抱へて、親子もろとも  
 狼のあと追ひうけてぞ、いそぎなり、  
 狼を山羊の子をたたくさんくうひ、腹まめねむりを  
 催しこれぞうらて此山よりひまぬして、あまるところへ



山羊の母きまり目め  
 さえぬよう、あつこのふ  
 絞めて其腹をきり  
 ひまは、七疋の  
 子山羊とヨイ  
 く、とどび出  
 ーア、あんがか  
 真暗なところで  
 あはふ、とソひあが  
 母の旁へまうんまう、  
 母をこどもらふソひつ  
 けて丸石を多くあつめ  
 させて、狼のまらまはめらみ、



めのおえ  
 ぬうち  
 わくの  
 通り  
 ぬひ  
 合せ  
 こあ  
 げふ  
 かこれ  
 みてあ  
 きバ  
 がて狼  
 い目を  
 さはし、



して、うらぐらぐらとまじいでゆらぬ。  
 やうて、もく相やハかへまきまみれバ子山羊ハ一疋  
 もをさふび、ざしきもサンとくアあぐりてあれバア、  
 あれほどもソひほおおし又母のしふことをきうぬ  
 申急大變なるとがおおーと、ひとまおちけく、火を  
 たきけくれバストーブのうーろまでおつろさんけむ  
 いよくと、いふ聲のーれバ、母をられもふよふこび、  
 るすらうの正城たぐぬと、あぐりとこふれが  
 さふばわとの敵を討ち果さく、いふふとほくハ  
 申くま、と針仕事の文庫と抱つて、親子もろとも  
 狼のあと追ひうけてぞいそぎなり、  
 狼を山羊の子をたくさんくひ、腹もあねむりを  
 催し、これうけて此山よりひもぬして、あつとこらへ



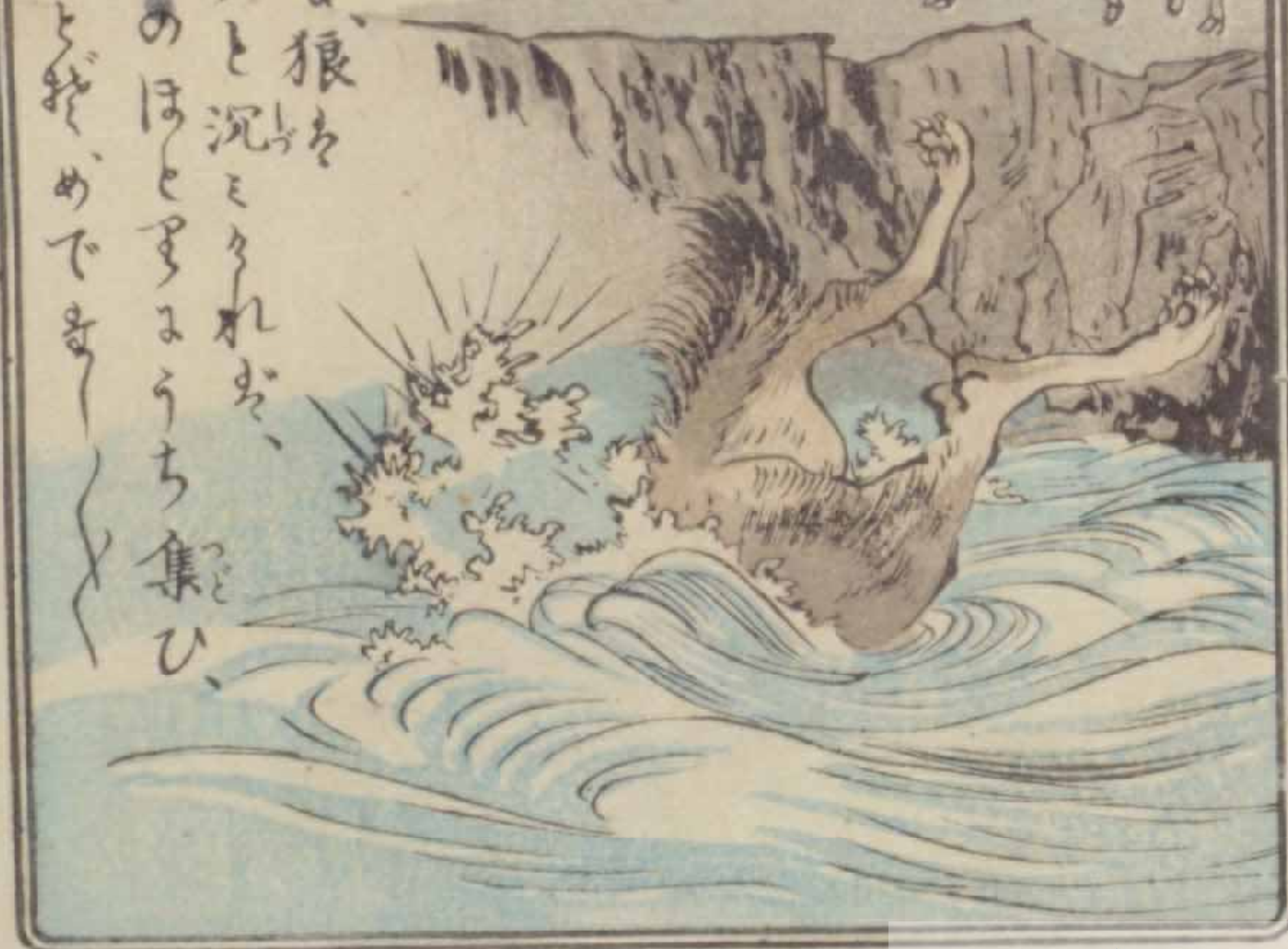
山羊の母きまり目め  
 さえぬよう、あつとこらへ  
 缺きて其腹をきり  
 ひもぬは、七疋の  
 子山羊ヒヨイ  
 く、とどび出  
 ーア、あんぶか  
 真暗なところで  
 あつとこらへ、とひあつと  
 母の旁へまじりまじり、  
 母をこどもらふひつ  
 けて丸石を多くあつめ  
 させて、狼のまじりまじり



めのおえ  
 ぬうち  
 わたの  
 みてあ  
 ちバヤ  
 げて狼  
 目を見  
 さはし、



かまやう石でも  
 もいけても  
 ろうなごち  
 りちがまごち  
 ひとりごちのひ  
 なごち喉がかそく  
 どみえて池よつをり水  
 ものまんとして前  
 へかみよ腰の中  
 丸石がごちくごち  
 げて前へ傾く其柏子よ狼を  
 池へのめまらみてブクブクと沈みくれだ  
 親子の山羊ハ走りいぐ池のほとりまらうち集ひ  
 掌とうち躍りて喜びと我れ下ま



ハテ吾を  
 たーかよ山羊  
 の子とくひとほよ





3 0 2 8

7



桐權氏司

放送大学

